

第7回日本公衆衛生看護学会学術集会 (山口県宇部市) に参加して

結核予防会結核研究所

対策支援部副部長(兼)保健看護学科長 永田 容子

■日本公衆衛生看護学会とは

日本公衆衛生看護学会(Japan Academy of Public Health Nursing)は、行政、産業、学校、教育機関などの公衆衛生の様々な分野で働く多くの看護職の賛同を得て、平成24年7月21日に発足しました。公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進を目指し、もって国民の健康増進と社会の安寧に寄与することが目的です。(学会HPより引用)

私は、2013年の第1回からたびたび参加し、感染症保健の分野で結核に関するテーマの発表が、現場の保健師の方から出されていることに大変興味を持っています。

■第7回学術集会の概要

「健康のアートとサイエンスで日々を織りなす公衆衛生看護」がテーマで開催され、1,000名余りの保健師が全国から集まりました。印象的だったのは、山口県出身のピアニストの仲道郁代氏のフェアウエル講演が一般公開され、芸術的な視点が盛り込まれていたことです。

一般演題(結核関連)

第14群、第20群の感染症保健では、結核に関する演題が6題ありました。

「路上生活者対策事業を活用して路上生活から居宅生活に移行した結核事例の報告(渋谷区、岩崎)」、「住所不定者の結核治療を支える体制を構築した保健師の公衆衛生技術(兵庫県立看護大、塩見)」、「全国保健所に対する外国出生結核患者の登録状況と対応困難についてのアンケート調査* (筆者)」、「在留資格のない結核・HIV/AIDS合併事例を通した新任期保健師の育ちの過程(平塚保福泰野、石橋)」、「保健所保健師が行う結核患者支援の実態-保健師経験年数による比較-(大阪府立大看護、安本)」、「結核についての意識調査(周南健福、弘中)」です。多くの方がポスター発表に集まって来られました。

ワークショップ(結核関連)

東京医科歯科大病院の二見氏、大阪市東淀川区の有馬氏が座長となって「外国人結核事例対応の新たな課題と解決法」が開催され、外国出生結核患者への対応に経験がある千葉県習志野保健所、大阪市保健所、新宿保健所、及び結核予防会外国人相談室(写真)からの発表がありました。



写真 発表は外国人相談室英語通訳山口梓氏

前日には学術集会の国際委員会企画から「日本に在住する外国人への健康支援を考える」をテーマにワークショップが開催され、情報提供や意見交換が行われ、外国人への対応が目立ちました。

さらに・・・

平成30年度学術奨励賞においては、教育・実践部門から『ホームレス結核患者に対する新たな「療養支援事業」』で大阪市保健所の笠井氏が受賞され、表彰式がありました。結核対策での保健師の活躍を嬉しく思うとともに、若い保健師にも引き継がれていることを実感できた学会でした。

* 研究報告優秀演題賞を閉会式にていただきました。学会で多くの参加者の方に投票していただき、ありがとうございました。

来年は、2020年1月11～12日に愛媛県松山市で、再来年は2021年1月9～10日に東京タワーホール船堀で開催されます。🐼